

令和5年度 東習志野高齢者相談センター事業計画書 (社会福祉法人八千代美香会)

包括的支援事業		4年度の取組計画内容	実施内容	実施して良かった点・反省点	その理由	課題	5年度の取組計画
1	総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>「笑学校」参加者に対して基本チェックリストを実施する。</li> <li>相談しやすいセンターとなる為に住民が参加している場へ積極的に顔を出す。公共施設や店舗に広報誌を配布するなど身近な存在であることをアピールすることを通じていく。ひとり暮らしふれあい食事会、町会の行事、寿学級(公民館)等地域住民が出席する行事への参加。</li> <li>サービス事業所、民生委員、高齢者相談員等関係者との連携に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規相談には、なるべく詳細に内容を把握し、他職員と情報共有するように努めた。相談内容はシステムに入力し情報共有した。対応した職員と他職員との情報共有により必要に応じて担当の交代などを行った。</li> <li>笑学校、ひとり暮らしふれあい食事会に参加し、血圧を測定するなど出席者の傍に行き積極的に声掛けした。まちづくり会議にも出席。</li> <li>あおぞら相談会を2回開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンを活用。すべての職員が閲覧でき対応の経緯などをいつでも確認できる。</li> <li>対応したケースを報告することで情報共有や意見交換ができた。</li> <li>地域の行事には積極的に参加。参加者との交流に努めた。</li> <li>住民他さまざまな方面から高齢者に関する相談があった。</li> <li>あおぞら相談会を企画し開催することができたが、相談やセンターの周知に至らず開催方法については要検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談対応の情報共有を適宜行えるよう、パソコンに集約するようにしている。</li> <li>長期にわたり支援することもあり主担当者以外でも対応できる必要がある。</li> <li>地域住民にセンターの存在が広まってきている。</li> <li>事前周知の時間が少なかったこと等もありあおぞら相談会に足を止めてもらえる人数が少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要支援高齢者の把握。</li> <li>出張相談会の対象に合わせた開催内容を企画する。</li> <li>出張相談会開催協力先を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談しやすいセンターとなる為に住民が参加している場へ積極的に顔を出す。公共施設や店舗に広報誌を配布や出張相談会を開催するなど身近な存在であることをアピールすることを続けていく。ひとり暮らしふれあい食事会、町会の行事、寿学級(公民館)等地域住民が出席する行事への参加。</li> <li>サービス事業所、民生委員、高齢者相談員等関係者との連携に努める。</li> </ul>
2	権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、困難な状況にある高齢者が安心して尊厳ある生活が過ごせるよう専門的・継続的な視点から支援を行う。</li> <li>広報誌を作成し、地域の集いやセンター主催のイベント等において広報活動を行う。</li> <li>東習ケア会議で権利擁護関連の情報提供、事例検討を行い、理解を深める。</li> <li>消費生活センター、警察との定期的な情報交換を行う。</li> <li>あじさい手帖作成を通じて、終末期医療・ケアの意思決定支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者虐待等の通報には迅速に対応、市への報告、相談を適宜行い適切な支援に努めた。セルフ・ネグレクトの対応についても高齢者虐待に準ずる対応として、状況確認や緊急性の判断を行い、適切な支援に努めた。</li> <li>高齢者地域の集いやセンター主催のイベント等において権利擁護の普及啓発を行い、権利擁護に関する理解を広げるよう努めた。</li> <li>消費生活センター、警察と適宜情報交換を行い、連携もスムーズに行うことができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者虐待については、生命を脅かす危険な状況に陥る手前での対応ができています。</li> <li>東習ケア会議、センター主催の高齢者のつどい「そなうれ」、プレーメンのラジオ体操、各笑学校、ひとり暮らしふれあい食事会では権利擁護の啓発活動を行った。具体的な例を紹介したり、東習ケア会議では警察と連携し消費者被害についての情報提供、事例検討も行った。</li> <li>困難事例の際、警察とスムーズに連携することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者相談員、民生委員、介護支援相談員等と日頃より連携しており、早期発見・相談がある。相談につながりやすい体制ができています。</li> <li>警察、消費生活センターとは適宜情報交換して良好な関係を築いていることから、困難事例の際にもスムーズに連携することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>権利擁護の啓発、利用支援</li> <li>高齢者虐待の啓発活動</li> <li>高齢者虐待、セルフネグレクトの早期発見・早期対応</li> <li>消費者被害防止の啓発活動</li> <li>終末期医療・ケアに対しての意思決定支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、困難な状況にある高齢者が安心して尊厳ある生活が過ごせるよう専門的・継続的な視点から支援を行う。</li> <li>広報誌を作成し、東習ケア会議、地域の集いやセンター主催のイベント等において広報活動を行う。</li> <li>東習ケア会議で権利擁護関連の情報提供、事例検討を行い、理解を深める。</li> <li>消費生活センター、警察との定期的な情報交換を行う。</li> <li>人生会議の普及啓発を通じて、終末期医療・ケアの意思決定支援を行う。</li> </ul>
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護支援専門員に対する研修の場、連携の場として包括ケア研修会を年に3回開催を予定。内容についてはケアマネ連絡会と検討する。</li> <li>東習ケア会議については圏域の医療・保健・福祉などの多職種の方々に協力いただきながら開催する。</li> <li>介護支援専門員の相談については寄り添いながら一緒に対応することを心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東習ケア会議については3回開催。医療・保健・福祉・介護</li> <li>ケアマネジャーからの相談には経験年数を考慮しながら対応するよう心がけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東習ケア会議については6.9.3月に開催。</li> <li>ケアマネジャーからの相談には感染症対策をしながら、訪問に同行などした。ケアマネジャーと利用者との関係性が良好なものになるようまたケアマネジャーの経験年数を考慮しながら対応するよう心がけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して相談業務を続けてもらうため、ケアマネジャーの不安に寄り添う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な職種が参加する会議なので話しやすい雰囲気作り、検討の方法などを工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護支援専門員に対する研修の場、連携の場として包括ケア研修会を年に3回開催を予定。内容についてはケアマネ連絡会と検討する。</li> <li>東習ケア会議については圏域の医療・保健・福祉などの多職種の方々に協力いただきながら開催する。</li> <li>介護支援専門員の相談については寄り添いながら一緒に対応することを心がける。</li> </ul>
4	介護予防ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き自立支援型ケアプランを意識し地域の資源を活用しながら支援する。</li> <li>通いの場等の充実を図り、参加者やサポーターをフォローする。新規の案内を継続し介護予防に繋げていく。</li> <li>男女問わず参加しやすい講座で、フレイル予防やラジオ体操を継続する。</li> <li>介護予防関連の講座の案内や事業の様子については「あじさい通信」や法人のブログ等に掲載し、広報を継続する。</li> <li>市役所の事業等の周知、利用の勧奨も行き共同して支援できるよう連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の場や地域資源を活用し、孤立を予防した自立支援のケアプランに引き続き取り組んだ。男性が参加しやすいラジオ体操を事業として、継続できた。町会のラジオ体操事業新規立ち上げの相談支援を行った。「笑学校」の継続的な参加が介護予防に繋がるように支援した。「あじさい通信」やブログでの案内を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援サービスに加え地域資源の情報や利用方法などを提案し、複数の運動、交流が効果的な支援となっている。</li> <li>屋外で行うラジオ体操は、開放的で短時間でできることから、男性の継続利用につながっている。また感染症対策が取りやすく、笑学校に比べ継続可能であった。</li> <li>歩いて通える介護予防の場として「笑学校」を紹介し、定期的にフォローし、ケアマネジメントに繋いでいる。感染症対策のため会場や利用者数に制限がかかり、完全休止や継続困難な時期もありつつ、短時間編成や交替制にするなど工夫しながら、できるだけ継続していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別ニーズによりサービス事業所や家族と連携を図り、自立支援・介護予防に繋げている。</li> <li>ラジオ体操や笑学校に参加してみても心身の変化を実感してもらった。更に地域の繋がりや情報共有が「楽しく続けて集える場」になる。</li> <li>コロナ禍での集いの場の維持は困難である分、丁寧に個別対応できるよう心がけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き自立支援型ケアプランを意識し地域の資源を活用しながら支援する。</li> <li>通いの場等の充実を図り、参加者やサポーターをフォローする。新規の案内を継続し介護予防に繋げていく。</li> <li>男性が参加しやすい講座で、フレイル予防やラジオ体操を継続する。</li> <li>感染症対策で通いの場が閉鎖されたままのところが予測される場合は、個別対応でフォローする。</li> <li>介護予防関連の講座の案内や事業の様子については「あじさい通信」や法人のブログ等に掲載し、広報を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き自立支援型ケアプランを意識し地域の資源を活用しながら支援する。</li> <li>通いの場等の充実を図り、参加者やサポーターをフォローする。新規の案内を継続し介護予防に繋げていく。</li> <li>男性が参加しやすい講座で、フレイル予防やラジオ体操を継続する。</li> <li>感染症対策で通いの場が閉鎖されたままのところが予測される場合は、個別対応でフォローする。</li> <li>介護予防関連の講座の案内や事業の様子については「あじさい通信」や法人のブログ等に掲載し、広報を継続する。</li> </ul>